



作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に『ファーストクラスの心配り』、『あなたの人格以上は売れない!』(プレジデント社)、『成「幸」学』(講談社)、『出過ぎる杭は打ちにくい!』(サンマーク出版)、『面白くなくちゃ人生じゃない!』(ロングセラーズ)、『小説・球磨川』(上下巻・ワニブックス)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.3percent-club.com

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 184

東洋のエジソン——田中久重

「人がひとたび考え始めた工夫は必ず成就する。糸のほつれを解くようなもので、細心にして熱心ならば、いかなるほつれも解けぬことはないはずだ」。人形が矢をつかみ、弓につがえて4本とも見事に的を射る『弓曳き童子』。美しい筆さばきで、寿・松・竹・梅の4文字が書けて、とめ・はね・はらいも完璧にできる『文字書き人形』。奇妙奇天烈なカラクリで人をビックリさせることが大好きな男、カラクリ儀右衛門の言葉である。

寺子屋ですずり箱に蛙を入れられて悪戯されたいじめられっ子、江戸後期1799年、福岡県久留米のべっ甲細工師の長男として生まれ、父の技を観て育った手先が器用な少年は、神社に来たカラクリ興行に驚き、自分でも作りたいと興奮する。家で細工を施したすずり箱は次の日、寺子屋で誰も開けられなかった。明治維新60年前、8歳で初めて作った『開かずのすずり箱』だった。「茶酌娘」は、和服姿の人形が盆に茶碗を乗せて畳を歩いて客の目前で止まり、いただいた茶を盆に戻すと、Uターンして下がる! 人形に意志があるような動き。地元でカラクリ興行を行なうと皆は仕掛けに仰天した。

ところが、長男が家業を継がないでカラクリに熱中しているのに父親は怒った。彼は弟が跡取りになるよう、自分は発明工夫で天下に名を挙げる! と言明する。

26歳でカラクリ興行師を夢見て全国を巡る旅に出る。大坂興行で次々に広がるカラクリ・ワンダーランドは連日大盛況になる。だが江戸では大雨で不入りが続き、一文無しになってススキを噛んで飢えをしのぐ。京都で「機巧堂」を開店し、人々の悩みをカラクリで解決する店と評判になる。

ロウソクでは夜の帳簿付け仕事は暗すぎ、もっと灯りが欲しいと相談が来ると、即座に作業に取りかかり、発明したのが『無尽灯』である。タンクから空気圧で灯芯まで油を送る仕掛けにして、明るさはロウソクの10倍にもなった。ガラスカバ

ー付きで風にも強い画期的なランプ、「ひとたび油をさせば、人体の血液のように昇降循環して休むことがない。ゆえに無尽と名付ける」と、タンクに銘文を彫った。電球が普及したころと同じ勢いで売れた空前の大ヒットで、今日でも100本以上が現存している。

起重機や、ホースから10mも水が飛ぶ消防ポンプ「雲龍水」など、注文主の予想を超える卓抜した製品を次々に発明した。ひとつだけ不採用だったものがある。祇園祭の山鉾巡行が角を曲がる辻回しは迫力ある見せ場、これを折りたたみ補助輪で容易に回転させるアイデアだったが、おもしろさがなくなると大不評となったのだ。

この失敗から教訓……うまくいくかどうかかわからないほうが客は盛り上がる! 『弓曳き童子』が放つ4本の矢の2番目はわざと的を外すように改造すると、観客は固唾を飲んで必死の応援で見守るようになり、人の心をつかむ天才発明家として国中に名が轟く。

国立科学博物館に残っている国宝の生涯最高傑作『万年時計』は、53歳の作品。天球儀、月齢や旧暦、洋式時計などが連動して、1年間も自動で動く驚愕の逸品。160年前の江戸時代の発明で千を超える手作り部品の精巧さに、セイコーや世界の技術者100人は分解しながら驚嘆した。老年になっても黒船の蒸気船に衝撃を受けるや自分でも小型蒸気機関車を作り上げ、電気に注目すると電信機や電話機を開発して大躍進を続ける。

1875年、77歳で銀座に工場を作って83歳の生涯を全うするまでカラクリ作りに夢を託し、工場は『東芝』となる。

「知識は失敗より学ぶ。事を成就するには、志があり、忍耐があり、勇気があり、失敗があり、その後に、成就がある」と、カラクリ儀右衛門こと、田中久重は言う。

エジソンは教科書に出てくるが、久重は歴史から霞んでいる。不思議な国だ。